

『洗礼の祝福』 マタイ28:18-20

28:18 イエスは、近寄って来て言われた。「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。

28:19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にきなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、

28:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

●序論

プロテスタントのキリスト教会には、基本2つの礼典（儀式）と呼ばれるものがあります。今日注目する「洗礼」。そしてもう一つが「聖餐式」です。

洗礼については、洗礼を受けて救われるのではなく、まず信じて救われることが大切です。その結果として洗礼の祝福が用意されています。

だから、洗礼に必要なことは、ただ一つ、イエス・キリストを自分の救い主として信じることです。

わたしは以前、ユースのキャンプで、洗礼決心講座を担当することがあり、小さなパンフを作ってそれを元にしてお話するようにしました。その中にも触れています。

2. バプテスマ(洗礼)を受けるのに資格は必要でしょうか？

答えは、それは、キリストを自分の救い主と信じ、従うことです。とあります。

今日、一人の方がイエス・キリストを信じて洗礼式に至ったこの良い日に、短くですが、その洗礼を通して受ける「祝福」に注目しておきたいと願います。

●本論

I. キリストの主権による

今日お読みしたところは、イエス・キリストが十字架につけられて墓に葬られ、三日の後によみがえって弟子たちに現れて、信じる者に救いを与える福音を証して後に天に上げられる。その直前、弟子たちに向けた言葉です。

その第一声は、「わたしは天と地のいっさいの権能を授かっている」でした。

そして言われるのが、すべての民にキリストを宣べ伝えてキリストにつく者とし、また、今日注目しているように「彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け」ることです。

12使徒のひとりマタイがその耳にして心に留めた最後の言葉。キリストがその天地のいっさいの権能を宣言して語られた言葉がここにあるのです。

先ほど紹介した小パンフの第一番目の質問に、

「バプテスマを受けなくても、キリストを信じていればそれでよいのではないか」という意見もあります。なぜバプテスマを受けるのでしょうか？…とあります。

それに対するシンプルな答えは、「それは、神の御心（みこころ）だからです」。そして今日お読みしているところを紹介して、1. 主イエスが命じられていることです。そして、2. バプテスマを受けることによって、信仰をあらわし、従順の第一歩を踏み出すこととなります。と解説しています。

わたしたちの救いはシンプルです。キリストに背を向け、離れて、暗闇を歩んできた人生から、キリストに目を向け、キリストの愛の中で、キリストに信頼して、キリストと共に歩む者とされていった…ということです。

少しの言葉の濁りもなく、イエス・キリストがその権威をもって「洗礼」を命じるのであれば、ここにはわたしたちにとって大切な祝福があると信頼するに足ります。そしてここから始まって「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」という言葉の真実を体験する人生へと導かれるのです。

Ⅱ. キリストとひとつになる

わたしたちは聖書のことばが証しする霊的事柄に心を向けて受け取る人生へと入る、それが信仰の歩みです。

皆さんは、なぜ今から約2千年前にこの地上を生き、十字架につけられ、墓に葬られよみがえられたイエスという方を、現代を生きる自分の救い主として信じるようになったのでしょうか？

それはあのキリストの十字架の苦しみと死が、わたしの罪のため。わたしにも目を向けて愛して、わたしの身代わりとなって死なれたお方であると、時と空間を超えて、わたしたちは信じたからではないでしょうか。

神が、キリストが、アジアの片隅の今を生きるわたしたちにも心を向けてくださっていると信じたのです。

そして信じることでキリストの事実がわたしたちに迫りわたしたちに結ばれていることを知ることができるのです。

ローマ6:3-5

6:3 それとも、あなたがたは知らないのか。キリスト・イエスにあずかるバプテスマを受けたわたしたちは、彼の死にあずかるバプテスマを受けたのである。

6:4 すなわち、わたしたちは、その死にあずかるバプテスマによって、彼と共に葬られたのである。それは、キリストが父の栄光によって、死人の中からよみがえらされたように、わたしたちもまた、新しいいのちに生きるためである。

6:5 もしわたしたちが、彼に結びついてその死の様にひとしくなるなら、さらに、彼の復活の様にもひとしくなるであろう。

神の御子キリストはわたしの罪を身代わりに背負って死なれました。わたしたちはこのキリストを信じて、自分が死なずとも、この死にあずかる者とされました。

それと同じように、キリストが死からよみがえられたように、キリストに結ばれてわたしたちは新しい命に生きる者とされるのです。

パウロの告白はこうです。

ローマ6:8 もしわたしたちが、キリストと共に死んだなら、また彼と共に生きることを信じる。

その救いの霊的事実を、体験的、象徴的にあらわすのが水のバプテスマなのです。

不謹慎に聞こえるかもしれませんが、わたしは洗礼の時、水にあおむけに沈めたその際のお顔を、良く眺めるようにしています。

そして思うのです。「いい、美しい死に顔だな！」と。

よみがえりのキリストに結ばれて命を生きる人としてのしるしとして見るからです。

Ⅲ. 恵みの生活の始まりである

いろいろな方の洗礼の証しを聴くことで…

ある人は、洗礼を受けたくて受けたくてやっと受けることができたという人もいらっしゃいますし、洗礼を受けることに長く躊躇を覚えてきたけれども、不思議な神さまの導きのなかで受けることができたと証しする人もいます。

そして、振り返ると、こんな祝福があるのに、なぜ自分がそれを躊躇してきたかわからない…とも言われます。

最初に申し上げたように、イエス・キリストを信じて救われた人にとって、このキリストが命じるこの洗礼を受けることは、祝福となります。

けれどもそれを、わたしたちよりも意外とよく知っているのがサタンです。

だから、それを妨げようとするこゝしばしばです。

いろいろな不安や、足りなさなどを持ち出して、洗礼から遠ざけることがあります。

先ほどの小パンフにこう記しました。

▼ 一生ずっとクリスチャンとしてやっていけるかどうか心配が起こってきますが、あなたのその心配(不安)を大切にしてください。自分の意志や能力でクリスチャン生活をやっていけるという、自信や見通しがあるなら信仰(神さまに頼ること)は不要になるからです。あなたのその不安を神さまにお祈りしてゆだねることが大切です。

自分に自信がないからこそ、キリストの約束の言葉を頼りにして、キリストの救いに期待するわけで、実はそれが信仰生活なのです。

だから、キリストの言葉を頼りにする大切な第一歩は、”神さまを信頼して”、洗礼を受けることなのです。

ここで「神さまを信頼して、頼りにして」というところを抜かないように。それは、洗礼を受ける人も、受けた人も、等しく神さま頼りに生きる信仰生活を送ることが大切だからです。

ですから、改めてあのパウロと同じ告白がわたしたちのものとなるのです。

ローマ6:8 もしわたしたちが、キリストと共に死んだなら、また彼と共に生きることを信じる。

●最後に

改めて、わたしのことをよく知る方は、わたしが洗礼を受けたのち、どんな歩みをしてきたか、これまでもよく話してきました。

神さまに背を向け、神さまから離れて歩みを長く続けていました。

そんなわたしでしたが、洗礼を受けたわたしの中には、遠く離れていても神さまの恵みと守りと気づきと促しと、そして奇跡がいつもついて回りました。

振り返ると、こんなわたしのために多くのクリスチャンとの出会いを神さまは用意してくださいました。

こんなわたしのために、神さまはわたしに必要な挫折と悩みを通して、神さまに立ち帰るようにして下さいました。

わたしは、そんな時いつも思っていたのです。あの時の、あの洗礼を通して私の内に不思議が神さまの、わたしをあきらめない祝福がいつも共にあると。

キリストがその主権をもって、わたしたちに命じているのは、神に信頼して受け取ることのできる祝福の王道へとわたしたちを導き入れるためです。

わたしたちの人生に、人がコントロールできないことはたくさんあります。でも覚神に従う洗礼を受けるわたしたちを、神さまはお恵みくださるお方です。

だからこそ、こう言われていることを覚えていてください。

28:19 だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、

28:20 あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」